資料６－４

丹波市らしさ、主な課題、生物多様性に関する過去の議論等について

１．“丹波市らしさ”やシンボルとなり得るもの

次期計画の目指すべき環境像や基本目標の検討に向けて、“丹波市らしさ”や市のシンボルとなり得るものについてご意見を伺いたい。

※例示の他に考えられる“丹波市らしいもの”やシンボル

※例示中で“丹波市らしいもの”やシンボルとして不適切なもの（もしあれば）

【“丹波市らしさ”やシンボルとなり得るもの（例示)】

（一例）
- 里地里山
- 水分れ・氷上回廊
- バイカモ、クリンソウ、ホトケドジョウなどの希少生物
- 希少生物の保全活動をされている方々がいること
- 生きもの：ホタル、カタクリ、セツブンソウ、ヒメボタル、オオムラサキ、クリンソウ、野鳥、四季折々の花（※市民アンケートより）
- 風景：山林、桜並木、河川、紅葉、田畑、田園風景、公園、里山、花（※市民アンケートより）
- 有機農業（オーガニックビレッジ）
- 丹波三宝（小豆・黒豆・栗）
- 丹波竜（に係る地層）

２．丹波市の環境に関する主な課題や懸念

次期計画の施策・事業等の検討に向けて、環境に関する主な課題や懸念について整理するため、ご意見を伺いたい。

※例示の他に考えられる課題や懸念

※例示の中で、特に重点的に取り組むべき課題・懸念

※例示の中で、市の課題・懸念として不適切なもの（もしあれば）

【主な課題・懸念の例】

◆里地里山
・耕作放棄地の増加（農地の荒廃）（※市民アンケートより）
・里山（山林）の荒廃（※市民アンケートより）
・松くい虫による松枯れなどの森林病害虫による影響
・里地里山の景観に影響をもたらしかねない太陽光発電施設の増加

◆外来種対策
・アライグマ、クビアカツヤカミキリ、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）、オオキンケイギク、ナガエツルノゲイトウなど

◆野生鳥獣との軋轢
・野生生物（シカ、イノシシなど）による農作物被害の増加
・ツキノワグマの出没

◆希少種関係
・絶滅のおそれのある種が多く生育・生息していること（絶滅を招かないように取り組んでいくことが必要）

◆自然との触れ合い
・子どもたちの自然との触れ合いが少ないこと

◆生活環境に関する事項
・河川にごみが不法投棄されている（※市民アンケートより）
・野焼きや工場・事業所からの煙や悪臭が多いこと（※市民アンケートより）

参考）過去の環境審議会等における生物多様性に関する議論

◆令和７年度環境審議会における「６．その他」に関する議論の要点

・以前に、生物多様性について審議してほしいということで、別の部会を設けて議論を進めていたが、その部会がなくなってしまった。続けていかないといけないと考える。
・その部会では、今の丹波市の状況がどのようになっているか調べるため、聞き取り調査やこれまでの調査を記録することを行われていた。具体的には保全団体の方々から聞き取り調査を行い、丹波市の地図に落とし込んでいた。植物や鳥類、魚類などに整理されて保存されている。
・その情報は環境省「いきものログ」にも登録されている。一旦調査した内容は整理をして終わったものとして認識している。
・データがあるのであれば、今後そのデータをどうやって集めて評価していくか、せめて方針だけでも議論ができればよい。
・以前から、丹波市は生物多様性について真剣に取り組まれてきた。次期環境基本計画には生物多様性戦略も入ってくると思うが、そこに特化してもう少し具体的な方法論に予算をつけて落とし込んでいくような計画書を作ってくのも一つの方法。
・可能であれば、アクションプラン的な戦略も必要ではないかと思う。

◆令和２年度の生物多様性に関する部会（２回開催）における議論の要点

・ヒアリング調査をしてデータを入力していくだけであれば研究機関がすればよい作業である。そこを政策とどうつなげるかが重要である。
・希少種の調査は、公共工事の際に希少生物に配慮できるようにという始まりであった。
・希少種も重要であるが、生物多様性を脅かす外来種の状況把握も必要である。
・「とりあえず調査」では予算が足りなくなる。外来種については、丹波市で問題になっているものをピックアップして、選択と集中で取り組む必要がある。職員数にも限りがあるので、市単独で緊急的に取り組むもの、県と連携して取り組むもの、環境省に対応を依頼するもの等、政策的な仕分けが必要になる。
・市でできることできないことがある。例えばクビアカツヤカミキリなど、入ってきたらまずいことになる外来種をピックアップして、事前に連絡網を整えておいたり、対処法を整備しておいたり、初動で抑え込めるようにするのが基礎自治体でできることかと思う。また、例えばクビアカツヤカミキリが入ってきたら桜に被害があって丹波市の観光に甚大な影響があるなど、そのような情報発信をして生息情報を収集することを考えることも有効。市がリアルタイムで情報を収集しておかないと被害が甚大になるものを優先したらよいと思う。
・市だけですべてを調べるのが難しいので、ヒアリングできる団体については団体の活動が続く限りはヒアリングを続けたい。地域の団体を中心に情報を集めるが、さらに人と自然の博物館からもデータ提供をいただくとよいと思う。

【過去の会議におけるご議論を踏まえ、留意すべき事項】

・生物多様性に関する施策・取組はより具体性をもって検討を進めることが重要。
・特に、実効性のある事業・取組を検討することが理想的。例えば外来種対策について、侵入したら被害が大きいと考えられる種を挙げ、監視・対応の手順を検討したり、保全策の検討においても、網羅的で表面的な内容よりも、『〇〇の自然共生サイト認定支援』や『希少種〇〇の保護』など、具体性をもったアクションの方が望ましい。
・市内で希少生物の保全を実践されている方々がいる。保全活動団体の方々と連携した施策を検討できると望ましい。